

みんなであそぶるさと吉川の魅力をアピール

第11回越後よしかわ酒まつり

第11回越後よしかわ酒まつりが5日、杜氏の郷前広場などで開催されました。天候は暑からず寒からず。曇り空だったものの、雨は落ちてこない。おかげで大入りでした。出店をされたみなさんは完売に近い状態だったのではないのでしょうか。売れ行き抜群でしたね。メインの酒も、(株)杜氏の郷の銘柄である天恵楽の特別純米、よしかわ杜氏の大吟醸がこのほど米国で行われたジョイ・オブ・サケ(全米最大の酒コンテスト)にて金賞に入賞したこともあって、これまた大勢の購入者で賑わいました。

お昼のオープニングセレモニーでは友好都市関係にある東京都荒川区の三島重信副区長さんや東京吉川会の関沢英雄会長さん、新潟県内の酒造関係者などが登壇し、お祝いと励ましの言葉をおぼけ南瓜を売っている人、山にあるアケビや

葉をのべてくださいました。来賓祝辞でびっくりしたのは荒川区三島副区長さんの挨拶でした。荒川区と言えば水泳平泳ぎで2つの金メダルをとった北島選手の地元です。北島選手を自慢した後、吉川でも金メダルとりましたね、とほめたのは米国での酒の金賞入賞でした。そして、三島さんは替え歌を歌い、吉川にエールを送りました。来賓祝辞で歌を歌った人を見たのは初めてです。酒祭りのメイン会場は杜氏の郷の広場です。今年も各種団体・グループのみなさんが多くの店をだして盛り上げました。会場を回って思ったのは、吉川にはコメや野菜、農産加工品、天然のものなどがじつに豊富だということです。おぼけ南瓜を売っている人、山にあるアケビや

ツルを持ち込んで売っている人もいました。毎回、人気の餅つきは今年も人の山でした。今春閉校になった県立吉川高校同窓会の皆さんは、寮の看板、スポーツ大会の入賞カップなど記念のものを展示し、注目されました。これらは地域おこしに結び付けたいものです。会場では懐かしい人にも何人か会いました。息子たちの恩師のみなさんとは、酒の販売場でもあったり。呉汁(ごーじる)を飲みながら、思いう話や近況を語り合いました。祭りでは、こういう交流もできていいですね。

来月20日、大潟区で市議会報告会

上越市議会はこのほど、議会改革の一環として市議会報告会を年2回開催することになりました。今年度は11月に市民プラザと大潟区コミュニティプラザで開催します。今回は9月議会報告が中心です。大潟区での開催日は11月20日。時間は決まり次第お知らせします。



【写真上】餅の三人づき。めずらしさと美味しさにひかれ人の山ができました。竹直のSさんによると、三人づきは関東地方で盛んだとのこと。【写真中】今年も酒まつりを盛り上げたよさこいソーランのグループです。小さな子どもも踊って人気です。【写真下】吉川高校閉校後、初の出店は同校同窓会のみなさんです。懐かしい看板や片桐ウタ子選手が陸上競技でもらったカップなどが並んでいました。

【一般質問の続き】

新潟県知事は並行在来線問題で関係知事と共同歩調をとるべきだ

【橋爪】並行在来線への財政支援などを求めた7月15日の11道県知事の政府への要請をどう評価しているか。新潟県知事が3月14日の日報政経懇話会で「JRに対し、先頭に立って（鉄道資産の）無償譲渡を求めるのは愚の骨頂ではないか」との発言が報道されたが、これは11道県知事の要請内容とはかけ離れている。新潟県知事が本気で並行在来線を存続させようとするなら、他の道県知事と歩調を合わせるべきだと思いませんか。

【木浦市長】ご質問の、当県を始め北海道から鹿児島県まで11の道県知事が、各地の並行在来線について、将来にわたり安定的な運営が維持できるように、関係国会議員及び関係省庁に要請されたことは、私も承知している。

要請の内容は、並行在来線の初期投資を始め、その運営には多額の経費を要し、維持・存続が大変危惧されること、及び並行在来線は、国民経済全体に多大な便益をもたらす重要な役割を担っていることから、国の運輸政策の中で、引き続き維持・存続すべきものとして、国に対し、新たな仕組みを早急に構築するよう求めるものであり、このことにつきましても、各市としても、同様の趣旨で国などに、これまでも繰り返し要望しているものだ。また、本年8月の「新潟県並行在来線開業準備協議会」設立時に、県知事と沿線自治体の3市長が、「並行在来線の存続のため、結束して在来線が維持できる体制づくりを進めること」、そして「地元自治体を含めた財政負担の軽減のため、積極的な支援策を講じるよう国に働きかけること」を確認した。この席上で、知事は、「国に對して、地域交通機関をどう守っていくのかという、しつかりとした基本政策を作ってもらうための取組みを進めていきたい」とコメントされてお

り、この基本方向は、11道県知事の要請と、同じ方向性にあるものと認識している。

【橋爪】並行在来線を維持・存続していく上で大事なポイントの一つは初期投資をできるだけ抑えることだ。JRに対して（関係する鉄道資産の）無償譲渡を求めることは重要だ。7月18日に新潟県知事が政府に要請した文書では、この点が落ちている。（無償譲渡を）重視し、関係知事と共同歩調をとるなら、この点も入れるべきだった。

昨年度決算、年金からの市民税天引き条例などに反対

9月議会会で日本共産党議員団

9月定例議会は10月2日の最終日、各議案の採決を行って閉幕しました。樋口議員が日本共産党議員団を代表して昨年度決算認定など5つの議案に対して反対討論を行いました。他の62議案に対しては賛成しました。討論概要は次の通りです。

増税や定率減税廃止・障害者自立支援法による負担増の中での昨年度でしたが、決算の中には、小型除雪機購入費補助事業、休日診療所の平日夜間の拡充、暖房用燃料助成など積極的に評価すべきものもある反面、市民の目線で見るといくつかの問題点があります。

具体的には、

- ①教育費の割合が10%を割り込んだこと、
 - ②既に終了した同和行政で依然として運動団体への多額の補助金支出を続けていること、
 - ③大規模経営のみの優遇で多数の兼業農家や家族経営を切り捨てる国の農政をそのまま受け入れていること、
 - ④障がい児者の自立の障害だと悲鳴をあげている国の自立支援法を、そのまま受け入れ続行していること、
 - ⑤学校教育の重要な一環である学校給食調理業務を民間に委託する企てを進めたこと、
- といった問題点があり、決算は認定できません。

次の上越市市税条例の一部改正は、65歳以上の年金受給者の個人市民税を年金から天引きするというものです。介護保険料、後期高齢者医療保険料に加え、さらにまた天引きでは、暮らしがなりたちません。国が決めたこととはいえ、認められません。

次は、3台のロータリー除雪車の取得の案件です。3台とも5社が入札に参加し、落札者も入札額の順位もは全部同じなのは不自然です。しかも「ロータリー除雪車は、平成十一年から今回まですべて同じ業者が落札している」などの指摘もありました。市民感覚では理解できない入札であり、この案件も認められません。

異常気象？それとも勘違い？

このところ、秋とは思えない現象に出会い、びっくりすることばかりです。

8日、坪野地内でスイレンの花が咲いているのを見かけました。この日はたいへん暑く、すぐそばの木からはミンミンゼミの鳴き声が聞こえてきました。一番驚いたのは、竹の子です。代石地内のもりよし家電さんの作業所敷地内のみみ殻の中から何と細い竹の子（写真は8日撮影）が出ています。



異常気象がもたらしたのか、たまにスイレンなどが勘違いしたのか……。



【ママコノシリヌグイ】タデ科。誰が名前をつけたのか恐ろしい名前です。ミゾソバと似ていますが、茎にはトゲがあります。これが痛い。

象がもたらしたのか、たまにスイレンなどが勘違いしたのか……。